

港区版

家庭学習の手引き



港区のキャラクター「みなりん」



目次

ステップ 1

こあいさつ	1
序版 家庭学習の手引きについて	2

第1章 早寝、早起き、朝ごはん ～基本的な生活習慣～3

1 朝食をとって元気な一日のスタートを！	3
2 早寝早起きは生活リズムの基本	4
3 ほめて、はげますことが大切	5
4 社会性・コミュニケーション能力をはくむ	6
5 保護者の学校や地域への参加	7
志水先生のなるほどコラム-「つながり」が子どもを支える	8

家庭学習チェックシート ステップ1「早寝、早起き、朝ごはん」	9
--------------------------------	--------

ステップ 2

第2章 家庭学習のできる環境づくり10

1 時間を決める	10
2 場所を決める	12
3 まずは宿題と明日の準備から	12
4 保護者の協力	13
5 携帯電話、インターネット、SNSについて	13
志水先生のなるほどコラム-家庭学習の習慣づくり	15

家庭学習チェックシート ステップ2「家庭学習のできる環境づくり」	16
----------------------------------	---------

ステップ 3

第3章 子どもの発達段階に応じたかかわり17

1 中1ギャップ問題とは	17
2 発達段階に応じたかかわりと学習方法	18
【小学校1・2年生】一緒に学習してやる気を起こさせる	18
【小学校3・4年生】認めてほめて自信をつけさせる	19
【小学校5・6年生】見守ってはげまし、自主性を伸ばす	20
【中学校1・2年生】しっかりはげまし、心のケアを十分にする	21
【中学校3年生】進路について家庭で話し合う時間をとる	22
志水先生のなるほどコラム-子どもとどうかわるか「関わり方」の大切さ	23

家庭学習チェックシート ステップ3「子どもの発達段階に応じたかかわり」	24
-------------------------------------	---------

参考資料

第4章 家庭学習のお役立ち情報25

1 家庭学習に役立つ教材あれこれ	25
2 おすすめホームページ	27
3 地域の教育資源	28

ごあいさつ

平素は港区政各般にわたりご理解・ご協力を賜りありがとうございます。

港区では、まちづくりの「将来ビジョン」の5つの柱の一つに「子育て世代が魅力を感じるまちづくり」を掲げ、特に教育の分野では今までにない新しい取り組みを進めています。平成25年度からは、教師が学習指導に本来の力を注げる環境づくりのため、専属のスクールソーシャルワーカーを配置し、市立幼・小・中17学校園を巡回・派遣しています。このことにより、区役所として、不登校等の教育上の諸課題を把握することができ、平成26年度から「中1ギャップ問題」^{※1)}の解決に向けたパイロット事業を、大阪市で初めて実施することとしました。その内容は、不登校や不登校傾向の児童へサポーターを配置し、中学校での不登校の予防をはかること、また保護者の方にも加わっていただき作成する「家庭学習の手引き」を活用して、学力に相関の高い生活・学習習慣の改善を図り、家庭での学習環境を整えて子どもの「学び」を支援することです。

この「家庭学習の手引き」は、すでに学校で独自に家庭学習の手引きを作成、活用している港中学校・八幡屋小学校・池島小学校をモデル校として、保護者や校長先生にも参画いただいて作成したもので、教育社会学の第一人者である大阪大学の志水宏吉教授に監修をしていただきました。ぜひ、子どもの家庭学習の習慣づくりにご活用いただければと存じます。

港区では、これらの事業に加えて平成25年度から「こどもサイエンスカフェ事業」^{※2)}と「絵本ひろば」^{※3)}の開催を支援する事業を、平成26年度には、大阪市の特別予算枠を確保して、小中学生が「英語村」^{※4)}などのアクティブな体験を通じて英語への興味やコミュニケーション力を高めるための「英語交流事業」を実施するとともに、大阪大学との協働で「こどもの居場所づくり」^{※5)}のプロジェクトなどにも取り組んでいます。

今後も、子どもの「学ぶ力」、「生きる力」を伸ばしていくため、港区の教育分野における取組みを各学校と連携してより一層進めてまいります。引き続きの区政へのご理解、ご協力をお願い申しあげ、「家庭学習の手引き」の発刊にあたってのご挨拶といたします。

- ※1 小学校から中学校へ進学した際、新しい環境での生活にうまく適応できずに生じる不登校等の問題
- ※2 子どもたちが研究員・技術者等とカフェ感覚で気軽に談話・交際を行い、科学に対する意欲・関心を高め、豊かな想像力を育むための事業
- ※3 様々な絵本を表紙が見えるようにして配架し、自由に選んだ絵本を、小グループで相互に読み合うなど、絵本を通して交流する場
- ※4 英語圏での生活の場面をつくり疑似体験することで、英語を自然に使えるよう工夫した教育環境
- ※5 家庭でも学校でもない、地域のボランティアが運営する第3の居場所（サードプレイス）づくり

平成27年3月

港区長

田端 尚伸

家庭学習の手引きについて

「勉強をなさい」「宿題をなさい」と言って、子どもに家庭学習を無理にさせようとする、習慣化が進むより先に「家庭学習がしんどい、嫌なものだ」というイメージになってしまい、結果的に子どもを学習から遠ざけてしまいます。

この冊子では、全国学力・学習状況調査などの各種調査からわかっている、学力を上げるために効果がある生活習慣や学習習慣等を、その根拠となる事実（エビデンス）とともに示して、そのような生活・学習習慣等の意義と、それらを家庭でどのようにしてつくっていくか（ノウハウ）とともに紹介しています。

この冊子の見かた・使いかた

ステップ1

ステップ2

「検証されている事実」「グラフ」

各項目の最初に、学力に関係があるとわかっている根拠となる事実（エビデンス）を取りあげています（電球アイコン部分）。そして、それに関する調査結果を各項目の最後にグラフで示しています。根拠となる事実は、主に文部科学省が毎年実施している、全国学力・学習状況調査から取りあげています。

本文

各項目の生活・学習習慣が“なぜ大切か”について、まとめています。

みなりん

各項目の生活・学習習慣づくりをどのようにして実行すればいいか、そのノウハウをみなりんが紹介しています。

家庭学習チェックシート

各章の最後にあるチェックシートを使って、定期的にふり返しを行いましょう。チェックがつかなかった項目については、その項目のページのみなりんがしゃべっているノウハウを確認し、チェックがつくよう再度チャレンジしてください。STEP3の章末には、総合的なチェックシートもご用意しています。

ステップ3

学年に対応した子どもの発達段階の特徴と、学校での主な学習内容、家庭学習のヒントをまとめているほか、みなりんが学年に応じたサポートポイントを紹介しています。子どもの発達や学校での学習のおおまかな内容をこのページでつかんで、家庭学習を進めてください。また、学校の先生と話をするときにも参考にしてください。

参考資料

インターネット上には、無料のさまざまな教材や学習に役立つ情報があります。それらのうちいくつかを紹介しています。ほかにもまだまだたくさんの情報がありますので、ぜひ探してみてください。また、地域の教育資源や相談窓口も紹介しています。

第1章 早寝、早起き、朝ごはん ～基本的な生活習慣～

「早寝、早起き、朝ごはん」など、この章で取りあげていることは、一見学力と直接関係がないように思われるかもしれませんが、さまざまな調査や研究からその関係性が明らかになっているものばかりです。子どもに直接勉強を教えることができなくても、これらの生活習慣や第2章の家庭の学習環境等を改善し、長続きする学習習慣づくりをすることによって、着実に学力向上へつなげていくことができます。

1 朝食をとって元気な一日のスタートを！



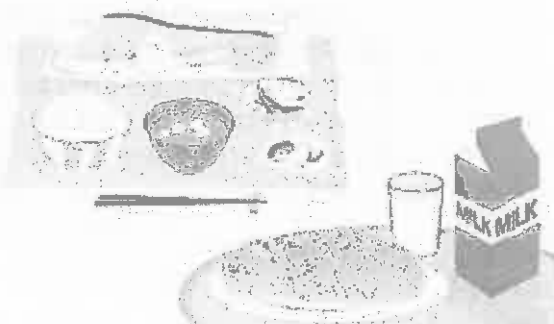
朝食を毎日とっている子どものほうが、得点（平均正答率）が高い傾向が見られます（くわしくは下のグラフのとおり）。また、体力・運動能力についても同じ傾向があります。

成長期の子どもにとって、栄養のバランスのとれた食事はとても大切です。とくに、朝食は、午前中の大切なエネルギー源です。朝食をとらないと、学校生活に必要なエネルギーが不足し、^{※1}授業に集中することや体育で元気に動き回ることか難しくなります。朝食を食べていない理由はさまざまですが、保護者が朝食を食べないと子どもが朝食を食べない割合が高くなることや、子どもの就寝時間が遅くなると朝食の欠食が増える傾向があることがわかっています。子どもも大人も元気にがんばれるよう、忙しくても朝食を食べる習慣をつけましょう。

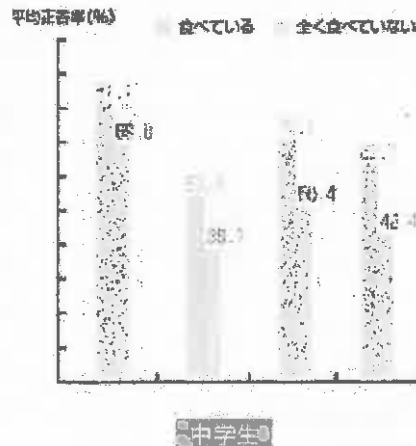
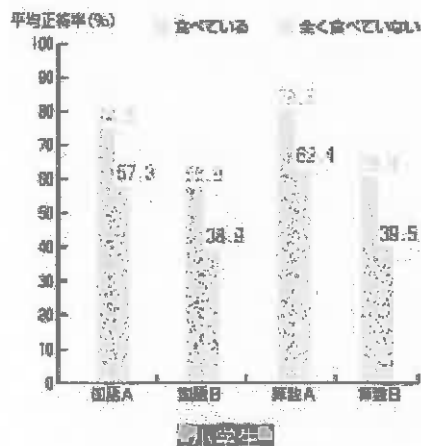
※1 脳で使われるエネルギーは、ブドウ糖からのみ補充されます。肝臓に蓄えられるブドウ糖は約12時間分しかなく、朝食を食べないと、前日の夕食から12時間以上ブドウ糖の供給がないため、脳がエネルギー不足になってしまいます（夜7時に夕飯を食べたら、朝の7時にはすでに0の状態）。



朝食を食べる時間がない、食欲がわかないという場合は、20～30分早く起きて、何か少しでも食べることから始めるといいよ。



朝食を毎日食べていますか？



全国学力・学習状況調査とは？

文部科学省が2007年度から年に1回、日本全国の小・中学校の最高学年（小学6年生、中学3年生）全員を対象として行われる学力調査。教科は算数・数学と国語で、基礎知識を問うA問題と知識の活用力を問うB問題からなっています。

「平成26年度全国学力・学習状況調査」より

2 早寝早起きは生活リズムの基本



毎日、同じくらいの時刻に起きていると肯定的回答をしている子どものほうが、得点（平均正答率）が高い傾向にあります（くわしくは下のグラフのとおり）。

日本は世界の中でも睡眠時間が短いとされる国のひとつで、子どもも夜ふかしをし、睡眠時間が短い現状にあります。子どもは大人より長い睡眠時間が必要です。大人の都合で子どもの生活リズムを乱さないように、できるだけ気をつけましょう。

睡眠は、脳を育て、守り、修復する大切な役割を担っており、記憶を整理して定着させる働きがあります。夜ふかしをすると、脳や身体の成長を促して情緒を安定させるホルモン^{*2}の分びつが悪くなってしまいます。また、睡眠不足で朝起きられない子どもは、「忘れ物が多い」「しかられる回数が多い」傾向があり、学校生活にも影響してしまいます。

しかし、昨日まで11時に寝ていた子どもを9時に寝かすのは難しいことです。「夜更かし・朝寝ぼけ→まじりの時差ぼけ・眠れない」という悪循環を断ち切るためには、まず、少しずつ早起きすることから始めてみましょう。朝、太陽の光をあびると、脳を目覚めさせるホルモンが分びつされて、スッキリと起きることができます。ただし、「起立性調整障害」という病気もあるので、朝起きれず午前中の調子が悪いようなら、医師の診断を受けるなどしてください。



^{*2} 子どもの身体や脳の成長に欠かせない脳内ホルモンのメラトニンと、成長ホルモンは、午後10時から午前2時の間に活発に分びつされます。

1～2週間早起きを続けると、子どもたちの体内時計が少しずつ変わってくるんだ。朝がつかなくなって、早起きしているから夜は早い時間に眠くなってくるってわけ。ただし、お休みの日に3時間以上遅くまで寝ていると、またリズムがくずれてしまうから気をつけて！



朝7時に起きるためには
何時に寝ればいいのか？

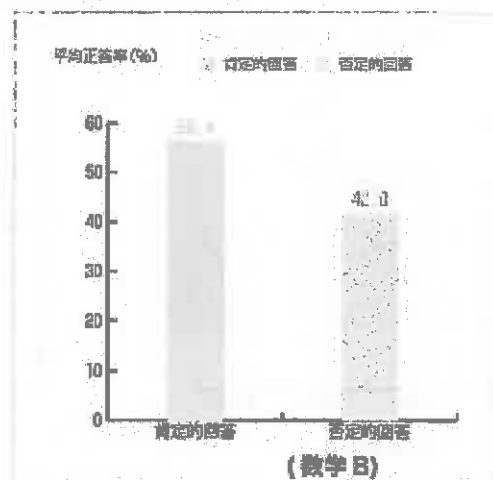
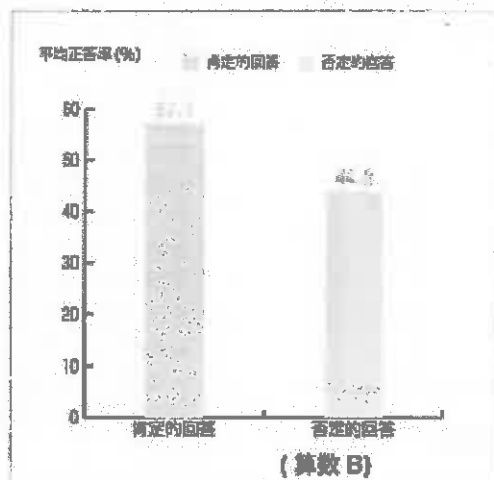
小学生の理想の睡眠時間は
10～11時間くらい

夜8～9時に寝ましょう！

中学生の理想の睡眠時間は
8～9時間くらい

夜10～11時に寝ましょう！

毎日、同じくらいの時刻に起きている



大阪市教育委員会「いっしょにのぼそう！子どもの学力（保護者用リーフレット）」より

3 ほめて、はげますことが大切



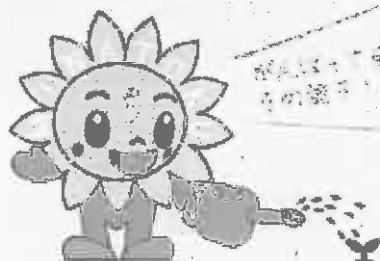
大阪市の子どもは、小学生の約3割、中学生の約4割が「自分にはよいところがない」と思っています（くわしくは下のグラフのとおり）。

子どもの学習意欲は自尊心^{※3}と大きく関係し、自信を持つことで、新しいことにチャレンジしようという気持ちも生まれます。とくに、登校期の小学校高学年から中学生にかけて自尊心が低くなる傾向にあるので、子どもの気持ちを大事にしてあげましょう。

子ども一人ひとりを見て、がんばったことがあればしっかりとはめ、足りないところがあれば次に向けてはげまし応援しましょう。まわりの支えやはげましにより、難しいことでも最後までやりぬくことや、努力することの大切さも伝わります。

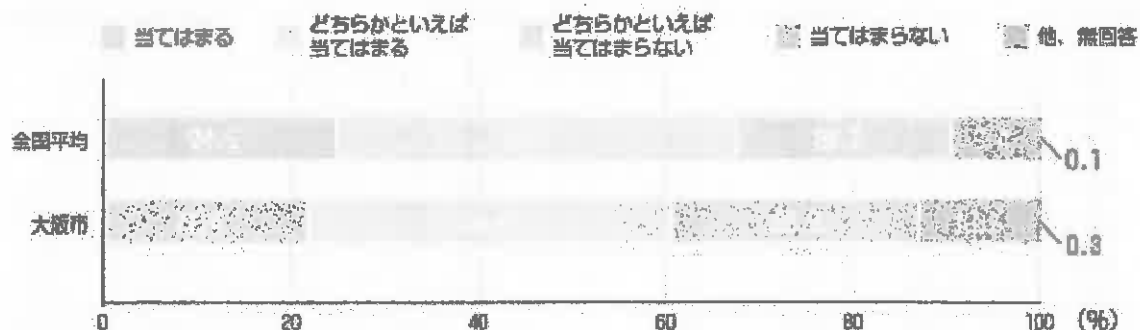
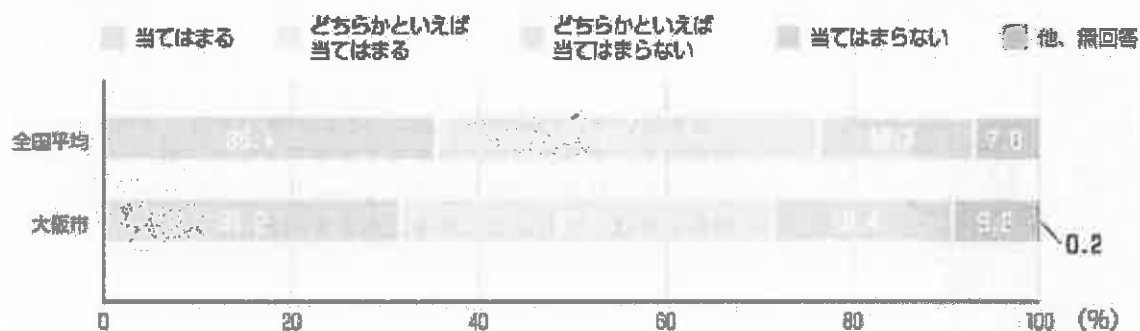


※3 自尊心とは、自分は生きている価値がある、自分は大切な存在だ、自分は必要とされているという気持ちのことです。



結果だけじゃなく、がんばったときは、小さなことでもきちんと認めてほめてあげてね。そうすることで、子どもの“やる気”が引きだされるよ。反対に、成績が下がったからといって友達や兄弟姉妹など、他の誰かと比較してしかることは、自尊心を深く傷つけ、やる気を低下させてしまうよ。

自分によいところがあると思いますか？



「平成26年度全国学力・学習状況調査 大阪市の結果概要について」より

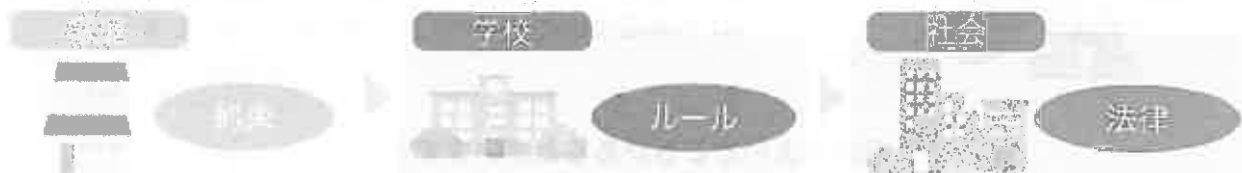
4 社会性・コミュニケーション能力をはぐくむ



学校のきまり（規則）を守っていると答えた子どもは、得点（平均正答率）が高い傾向にあります（くわしくは下のグラフのとおり）。

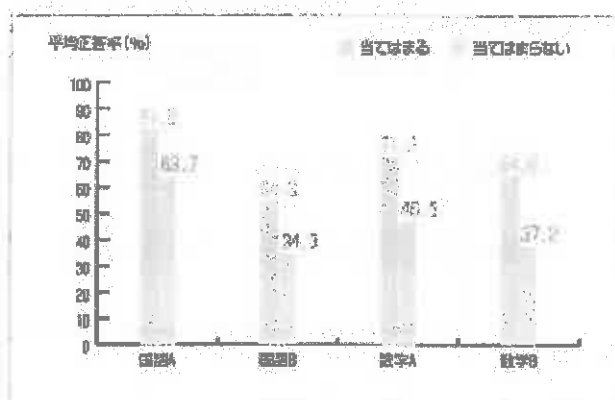
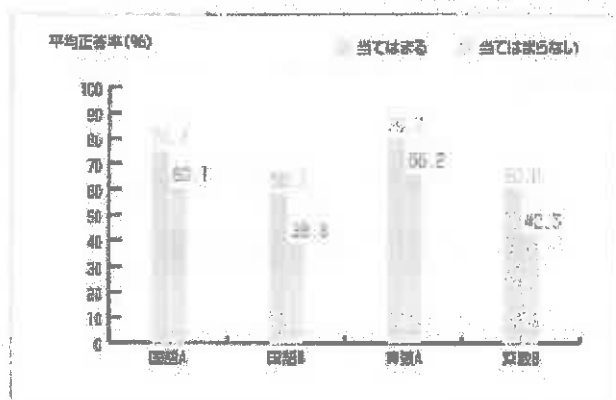
あいさつは、コミュニケーションや信頼関係をつくる第一歩です。まずは家庭の中から「おはよう」「おやすみ」「ありがとう」などの「ひと声」を心がけていきましょう。子どもにとって家庭での会話は、安心感や信頼感を得て、社会で生きるための価値観をはぐくんでいきます。食事の際はテレビを消して「会話をする時間」にあてるなど、積極的に時間をつくっていくことが大切です。

また、集団生活の場には、必ず守らなければならない決まりごとがあります。大人になってから困らないように、小学生のうちから、自立・自律の準備をはじめましょう。子どもはさまざまな体験の中から想像力をはぐくみ、人の痛みや優しさを理解するようになります。なかでも家事の役割分担は、いちばん身近な体験の場。食事の片付けや、部屋の掃除、洗濯物干し、犬の散歩などの手伝いを続けるうちに、生きていくための知恵や人の役に立つ喜びなどを学びます。



お手伝いや、門限時刻、おこづかいの使いかた、ゲームの時間など、生活のなかの決まりごとを子どもと一緒につくっていこう。約束や決まりを守らなかったり、人に迷惑をかけたときは、きちんとしかることも大切だよ。

学校のきまり（規則）を守っていますか



「平成 26 年度全国学力・学習状況調査」より

5 保護者の学校や地域への参加

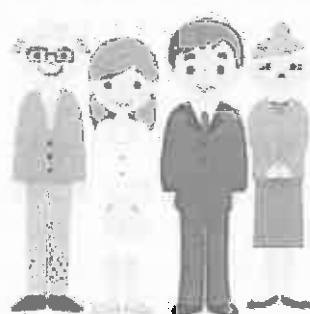
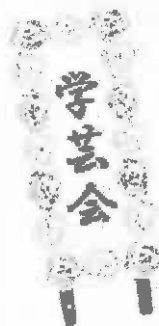


学校行事によく参加している保護者の子どもは、得点（平均正答率）が高い傾向にあります（くわしくは下のグラフのとおり）。

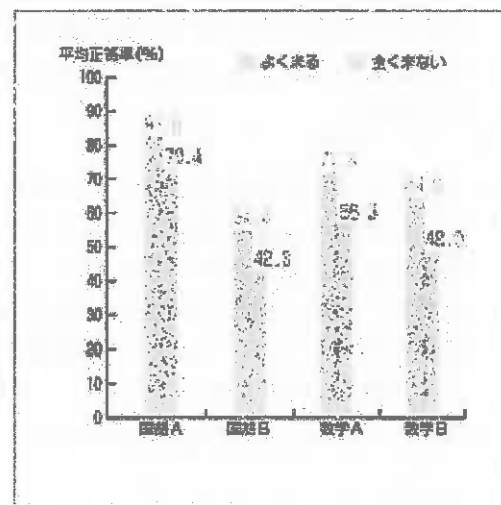
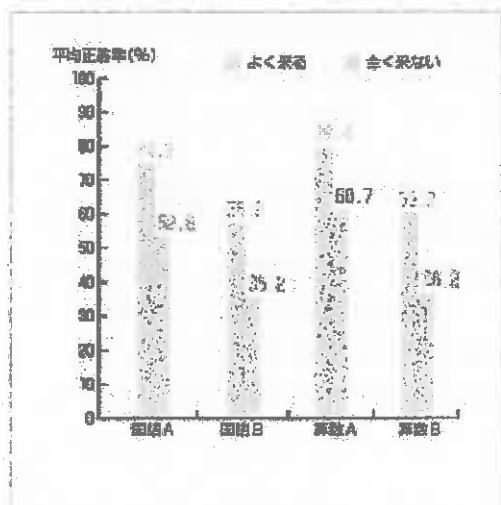
近年、保護者の学校や地域とのつながりが、子どもの学力に一定の影響を与えていることがわかってきました。具体的には、授業参観や運動会などの学校行事へ出席することや、地域のお祭りやボランティア活動などに子どもと一緒に参加することなどです。学校や地域には、教育のプロ（先生）や子育ての先輩（保護者）がたくさんいます。信頼を築いていくために積極的に参加していきましょう。

ちなみに、毎年、全国学力・学習状況調査でトップクラスの秋田県や福井県は、保護者と学校とのつながりが、とても強いことで有名です。お互いに信頼しあっていると、子どもたちの学力も伸びるということかもしれません。

学校の教育目標や授業の計画、行事、学校協会の開催情報などは、各学校のホームページでチェックできるよ。まずは、学校がいま何に取り組んでいるかを知ることからはじめよう！



家の人（兄弟姉妹を除く）は、授業参観や運動会などの学校の行事に来ますか



「平成26年度全国学力・学習状況調査」より

志水先生の／

な る ぼ ど コ ラ ム

大阪府立大学に就任した志水先生

「つながり」が子どもを支える

子どもたちの学力を伸ばすひとつの手だてとして、私たちが近年注目しているのが「つながり」の力です。

これまで保護者の経済力や学歴が、子どもの学力形成に大きな影響力をもっていることが明らかにされてきました。子どもを習いごとや塾に通わせることや、保護者自身がどのように勉強すればよいかを知っていることは、当然ながら子どもの学力向上につながっていきます。しかし、経済的・文化的に恵まれた環境のもとにある子どもたちだけが学力を伸ばせる、というわけではありません。

最近になって、子どもたちが持つ人間関係の「つながり」が学力を下支えしていることがわかってきました。保護者はもちろんのこと、学校の先生や友だち、あいさつを交わしてくれる近所のおじちゃんやおばちゃん、一緒に活動する先輩や後輩など、子どもたちはさまざまな人間関係のなかで生活をしています。「つながり」とは、こうした人間関係のネットワークを指します。

子どもの学力向上は本人の努力次第である、と私たちは考えてしまいがちです。しかしながら、友だちや先輩・後輩とのかかわりのなかで切磋琢磨することでもできますし、また地域の人々とかかわりのなかで、将来こうなりたい、という「モデル」に出会うかもしれません。もちろん、家庭での保護者との関係、たとえば学校での出来事や将来の話をすることも、子どもの学ぶ意欲をあと押しします。子ども自身の努力ももちろん大切ですが、実はこうした家庭・学校・地域におけるさまざまな人々との「つながり」が、子どもの学びを支えているのです。

かつての日本には、こうした「つながり」は、どこにでも豊かにありました。しかし、最近では（とくに都市部を中心に）地域での人間関係は希薄化し、家庭や学校でうまくコミュニケーションがとれない子どもの数も増えているように思われます。

このような社会状況のなかで、保護者にできることは、単に子どもの教育にお金をかけたり、勉強を見てやったりすることだけではありません。子どもたちがさまざまな人間関係の「つながり」をつくる機会を増やすこともまた、大切なことです。一緒に地域や学校の行事に参加したり、図書館や公民館といった地域の施設を利用したり、あるいは保護者同士のネットワークを広げていったりすることは、子どもが有する「つながり」を豊かなものにし、きっと彼・彼女の学びをしつかりとサポートしてくれるはずです。

家庭学習チェックシート

ステップ1「早寝、早起き、朝ごはん」

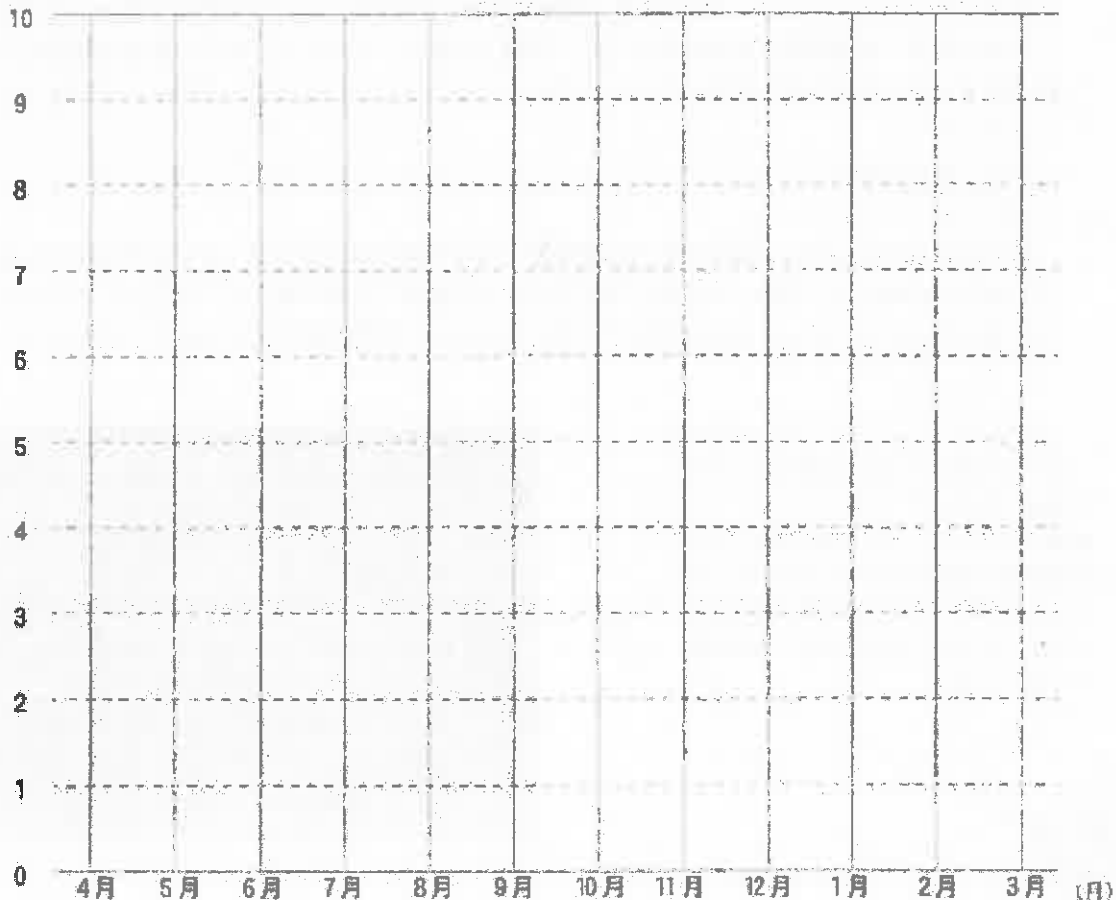


<チェックシートの使い方>

毎月できた項目にチェックを入れ、
合計を折れ線グラフにしてみましょう。

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1 子どもが毎日朝食をとっている												
2 子どもの起床・就寝時間を知っている												
3 子どものよいところを見つけ、積極的にほめるよう心がけている												
4 「おはよう」「ありがとう」などのあいさつを自らするよう心がけている												
5 子どもとできるだけ話す時間をつくっている												
6 子どもに家事などを分担してお手伝いをさせている												
7 門限やテレビを見る時間など、ものごとのルールを決めて、守らせている												
8 決めた約束をやぶったり人に迷惑をかけた際にきちんとしかなっている												
9 学校や地域の活動・行事などに積極的に参加している												
10 子育てや教育についての悩みを相談できる友人や知人がいる												
できた項目 合計												

(できた項目数)



第2章 家庭学習のできる環境づくり

子どもの家庭学習のために保護者ができることは、第一に環境づくりです。それは決して、広い勉強部屋を用意したり、多くの参考書を買って与えたりすることだけではありません。

第2章では、子どもが毎日コツコツ家庭学習を続けられるようにどう支えていけばよいか、環境づくりの基本について確認していきます。

また、子どもの家庭学習を定着させるには、環境を整えるだけでなく子どもができるだけ自分で学習の内容ややり方、時間などを決めていけるように、手助けをすることも大切です。

「なぜ勉強をしなければならないか」などについても話し合うことができれば、子どもが自分なりに納得をして勉強に向かうことが期待できます。



1 時間を決める



学校以外での学習時間が多い子どものほうが、得点（平均正答率）が高くなっています。（くわしくはP11のグラフのとおり）。

家庭での学習時間が多いほうが、学力も向上するというのは当然の話だと思われるかもしれませんが、これまで子どもの学力には、「家庭背景（所得や両親の学歴等）」が大きく影響するといわれてきました。

しかし近年、家庭背景の影響を除いても「学習（＝努力）すること」が高い学力の獲得につながると、改めてデータで出されています。家庭背景を変えることはできませんが、環境づくりや努力により結果は出るのです。

また、学習時間は、長さだけでなく始める時間も決めることが大切です。毎日決まった時間にコツコツ続けていきましょう。

集中力が続かない子は、漢字練習→計算練習→植物や動物の観察など、次々に学習内容を変えてみるのも有効な手段だといわれています。それでもすぐに飽きてしまう場合は、内容のレベルが合っていないのかもしれません。少しレベルを下げて、子どもに合った学習内容を探してみてください。

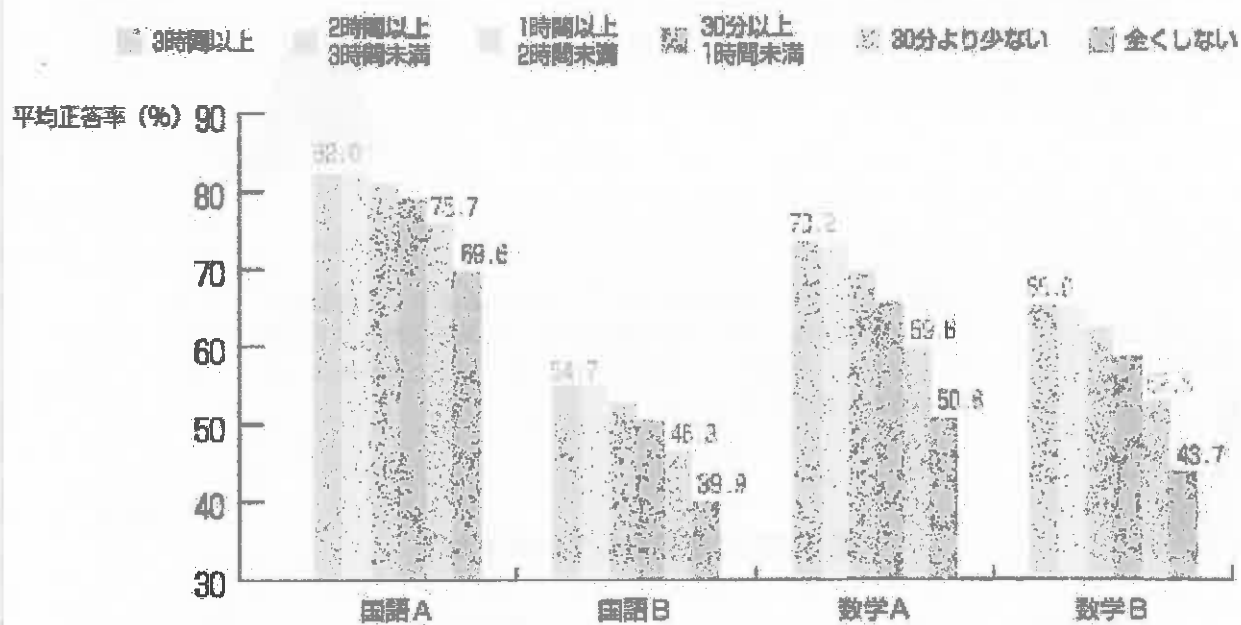
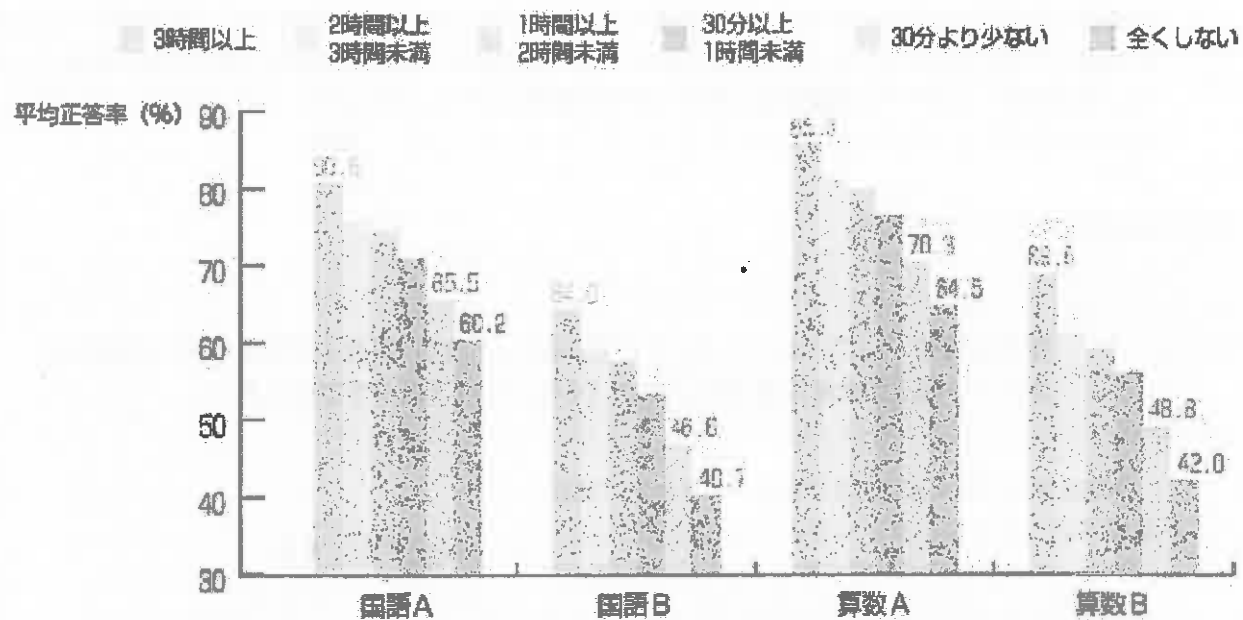
子どもの集中力が続く時間は、小学生の場合、おおよそ「学年×10分」といわれているから、この時間を学年ごとの家庭学習の時間のめやすにできるよ。ただし、「学年×10分」は、あくまでもめやす。一人ひとりに合わせて、徐々に慣らしていこう！



家庭学習のめやす時間

学年	学習時間
小学1・2年	10～30分くらい
小学3・4年	30～40分くらい
小学5・6年	50～70分くらい
中学1・2年	90～120分くらい
中学3年	120分以上

学校の授業時間以外に普段（平日）1日当たりどれくらいの時間勉強しますか
（学習塾等も含む）



『平成26年度全国学力・学習状況調査』より



「全くしない」より「30分以下」でも勉強をしたほうが、得点（平均正答率）が高くなっていることに注目！とくに中学生は、国語Aで6.1、国語Bで6.4、数学Aで9.0、数学Bで9.1と、するしないで大きなポイント差が出てるよ!! 少しずつでも、家庭学習の時間を習慣づけていくことが大事なんだ。

2 場所を決める

時間のほかに、毎日決まった場所で学習することも大切です。そして、その場所を学習に集中できるような環境にしましょう。学習する机やテーブルは、きれいに片づけ、漫画やゲームなどを目のつく場所に置かないこと。照明は利き手の反対側に置き、頭や手の影ができないよう明るくします。できれば、人やペットの通らない静かな場所が望ましいでしょう。また、小学1・2年生については、保護者の目が届いて言葉を交わしあえる場所のほうがよいでしょう。

3 まずは宿題と明日の準備から



家で宿題を「している」と「全くしていない」では、得点（平均正答率）が概ね20ポイント以上の大きな差があります（くわしくは下のグラフのとおり）。

宿題は学校で学んだことを定着させるための「練習」を基本としたもの。まずは宿題からはじめましょう。いま子どもが学校でどんな学習をしているのか知っておくためにも、毎日の宿題をできるだけ見ておきましょう。

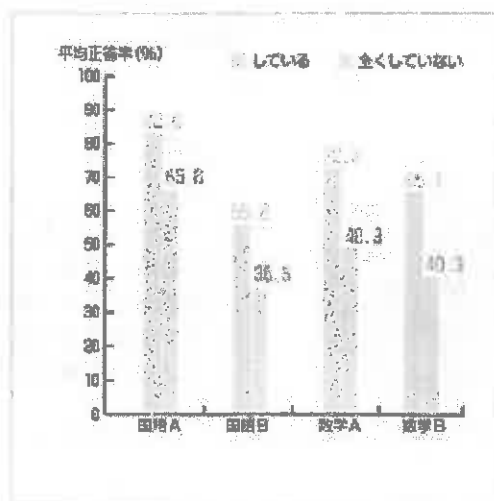
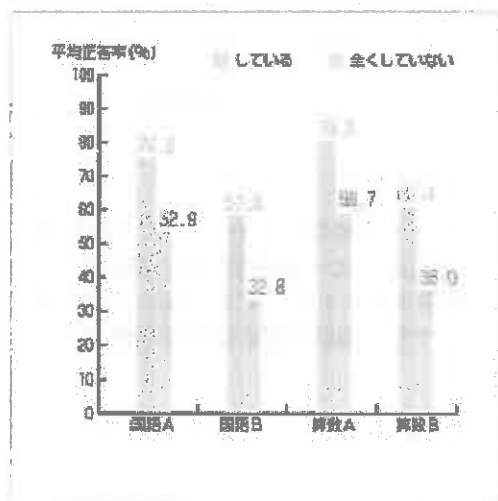
宿題が終わったら、次の日に必要なものをチェックし、登校の準備（学習用具の点検や忘れものチェック）をします。時刻割は壁などの見やすい場所に貼り、学校からの連絡やお便りは、子どもと一緒に確認していきます。



「宿題やった?」「学校からのプリントはある?」と毎回聞くのも大変だね。終わった宿題や学校からの配布物などを整理するために、専用のカゴなどを用意して、そこに入れるようにするのもひとつの方法だよ。

お便りプリント入れ

家で学校の宿題をしていますか?



「平成26年度全国学力・学習状況調査」より

4 保護者の協力

家庭学習の環境づくりには、学習の時間中は音楽やテレビを消すなどの協力も大切です。ただ「勉強をなさい」と子どもに押しつけるのではなく、保護者も子どもの勉強に関心を持って一緒に取り組む姿勢は、子どもたちにきちんと伝わり、がんばろうという原動力になります。

また、本や新聞などに触れさせるのも大事なことです。文章を読む力は学力の基本です。読解力がないと、算数などの文章問題も投げ出してしまうかもしれません。読書は、豊かな感性や想像力も育てていきます。いつでもすぐ手に取れるよう、つねに身近に本がある生活を心がけ、できるだけたくさんのお本を読ませてあげましょう。



読む本の内容は、そのときに子どもが興味のあるものでいいよ。絵本でもいいから、読み聞かせや、交代で読みあうなどしてみよう。同じ本を読んで感想をいい合ったり、一緒に図書館へいくこともオススメだよ。

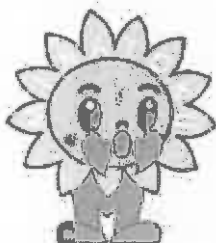
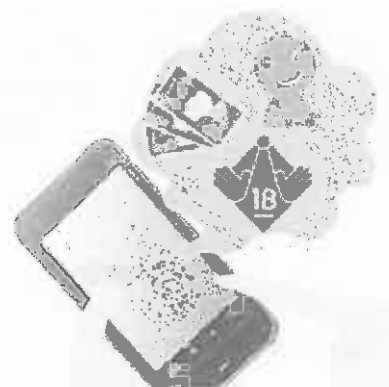


5 携帯電話、インターネット、SNSについて



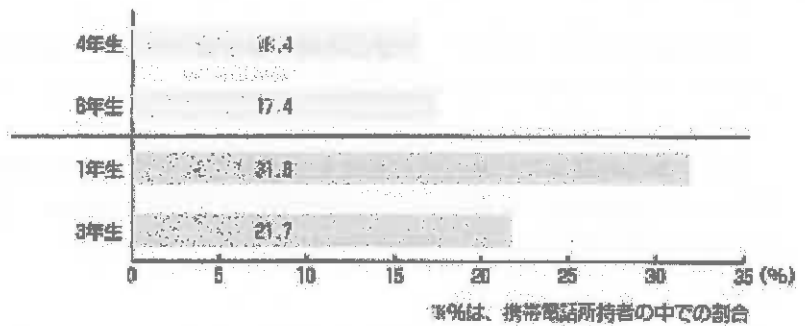
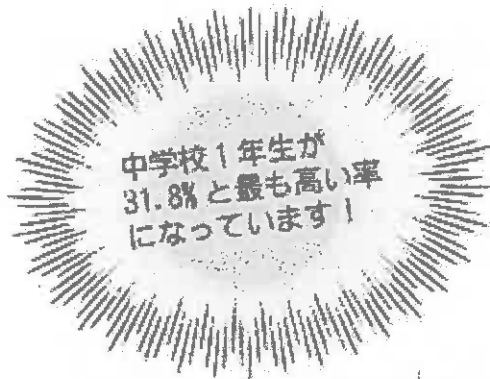
平日に毎日1時間以上携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをすると回答している割合は、小学生で約15%、中学生では約50%近くになります。利用時間が短い子どもたちのほうが、得点（平均正答率）が高い傾向がみられます。（くわしくはP14のグラフのとおり）。

携帯電話やインターネットへの依存傾向の高い子どもたちの2人に1人は、1日の学習時間を30分以内と答えており、学習のさまたげとなっています。また、これらは、たいへん役立つ道具ですが、同時に危険性も持ちあわせています。大阪府「平成23年度携帯電話の利用についての実態把握調査」によると、小学校6年生の17.4%、中学校1年生の31.8%が、携帯電話で嫌な経験をしたことがあると回答しており、現在は、Twitter、LINEなどへの依存やトラブルにあう子どもたちも急増しています。保護者と子どもとの認識の違いが、被害の深刻化につながるので、十分に注意してください。できるだけ家族の目の届く場所で使用させ、フィルタリング（有害サイトアクセス制限）サービスや、ペアレンタルコントロール（機能制限）サービスを利用しましょう。



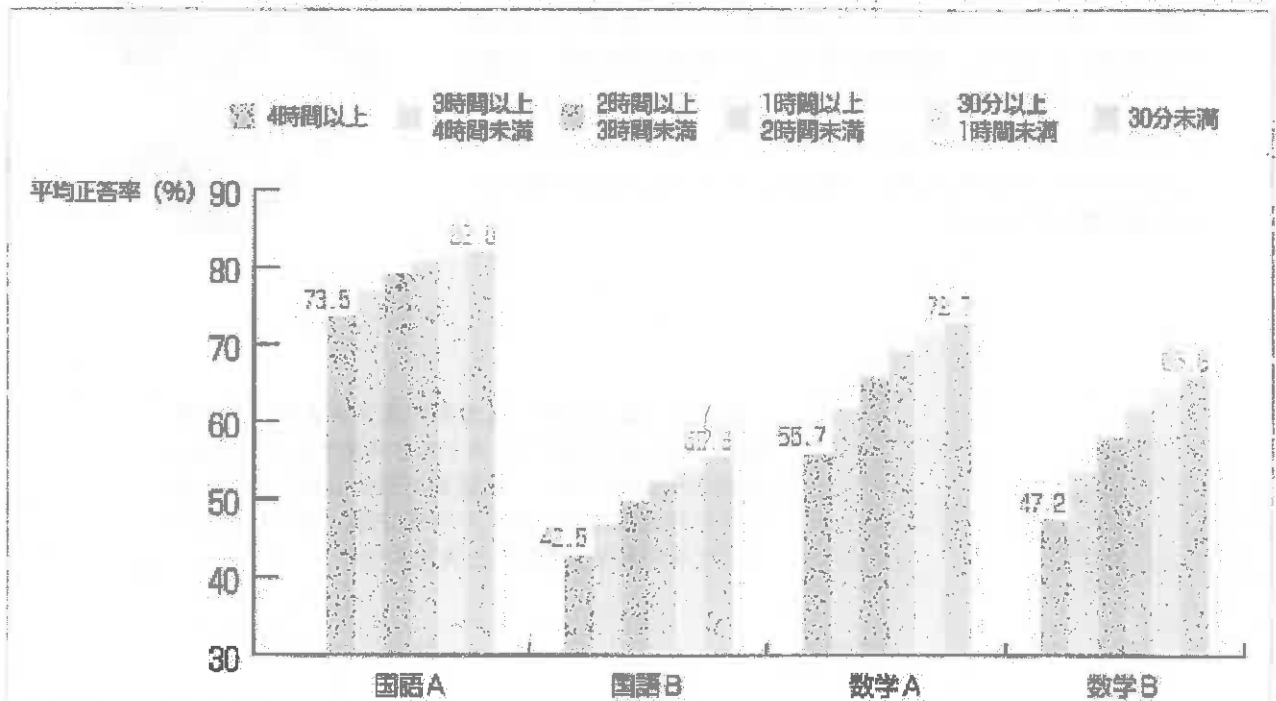
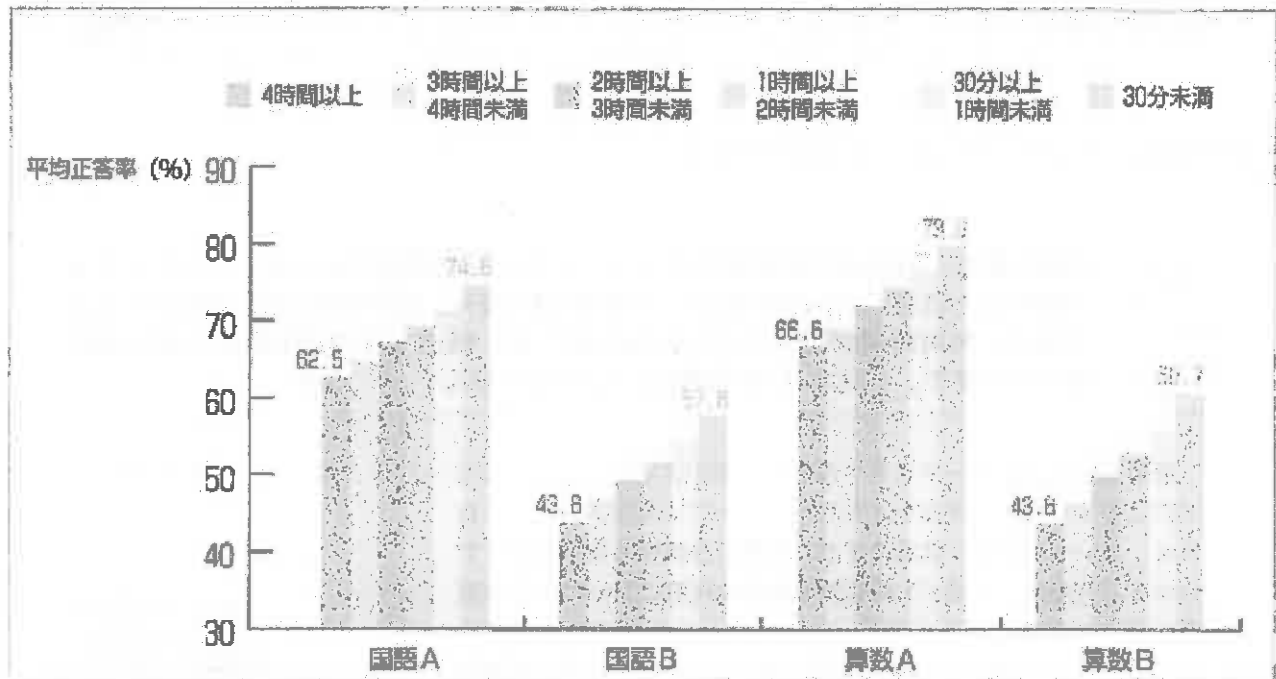
家庭で「みんなのいる場所で夜々時まで」など具体的なルールを決めて、子どもと約束するといいよ。決めた時間になると、保護者が預かるのもいいかも。ネットの危険性や、他人への悪口は、よくないということも子どもにきちんと伝えよう！

「携帯電話で嫌な経験をしたことがある」と回答した児童生徒



大阪府「平成23年度携帯電話の利用についての実施把握調査」より

普段（平日）1日あたりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで
通話やメール、インターネットをしますか



「平成26年度全国学力・学習状況調査」より

志水先生の／

なるほどコラム

尾崎市立小中学校 教員 志水 美穂

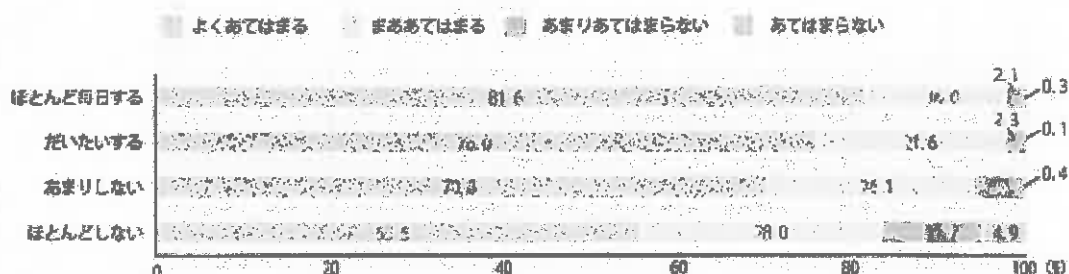
家庭学習の習慣づくり

学力を定着させるには、勉強した内容を繰り返し復習することが重要なのは言うまでもありません。しかし、今日の学校では教える量がいっぱいありすぎて、授業中に復習の時間を持つことが難しくなっています。だからこそ、“家庭での復習”が欠かせないものとなります。保護者の側からすると、子どもにいくら「宿題をきなさい!」と言っても、なかなかきちんと取り組んでくれない場合もあるでしょう。そんな悩みを持つ保護者の方は、結構多いはず。子どもの家庭学習には、どのようなアプローチが効果的なのでしょうか。

家庭学習についてのアンケート結果（下のグラフ）を見ると、毎日「決まった時間に勉強する」子どものほうが、熱心に家庭学習に取り組んでいることがわかります。毎日「決まった時間に勉強する」場合には、約80%の子どもが「宿題をきちんとする」と答えているのに対して、決まった時間に「ほとんどしない」場合には、「宿題をきちんとする」は約55%にとどまります。このほかにも「前日に学校の準備をする」子どものほうが、家庭学習に取り組んでいるという結果も出ています。決まった時間に宿題をしたり、次の日の学校の準備をしたりできる子は、しっかりと家庭学習の習慣を身につけていると言えるでしょう。当たり前のことかもしれませんが、こうした毎日の習慣づけが、継続的な家庭学習につながっていきます。

家庭での習慣づくりのためには、まずは「時間」のルールをつくるのが良いでしょう（「いつからやるのか」「どのくらいやるのか」）。また「時間」だけでなく、「場所」についても工夫することができます。家庭学習が熱心に行われている福井県では、リビングルームで宿題をする子どもも多いようです。保護者が直接宿題を教えるわけではないですが、目の届く場所で宿題をすることが、子どもの“習慣づくり”に効果的なようです。家庭での一日一日の着実な積み重ねが、子どもの学力を確かなものにしてくれるはずです。

出された宿題はきちんとやる



「尾崎市子どもの学力・生活実態調査」(2012年 小学5年生 3711人対象)より

家庭学習チェックシート

ステップ2 「家庭学習のできる環境づくり」

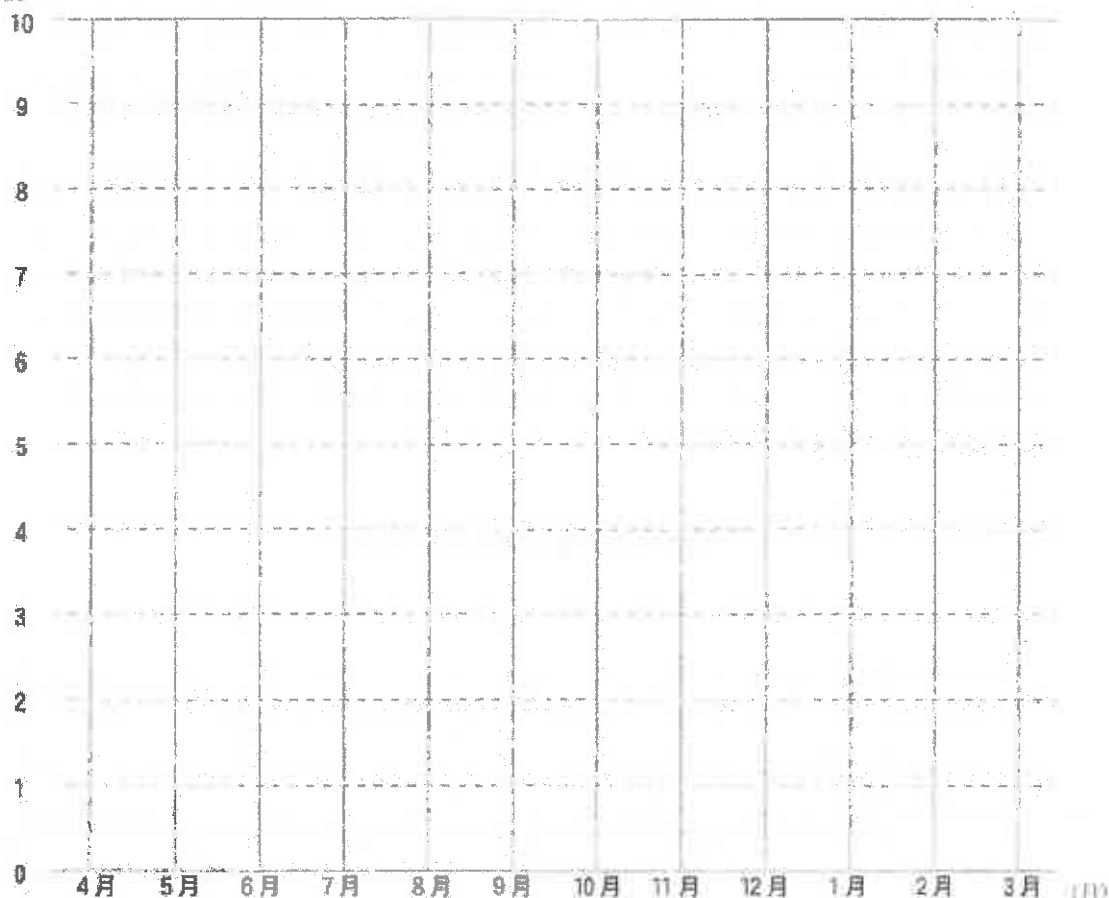


<チェックシートの使い方>

毎月できた項目にチェックを入れ、
合計を折れ線グラフにしてみましょう。

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1 家庭学習の時間を毎日何時から何時までと決めている												
2 家庭学習を行なう場所を決めている												
3 学習する机やテーブルの上をきれいに片づけている												
4 学習中、漫画やゲームなどは目のつく場所においていない												
5 明るく影ができないような照明の下で学習させている												
6 人やペットの行き来が激しくない場所で学習させている												
7 子どもの宿題の内容を把握している												
8 学校からの連絡やお便りには必ず目を通して												
9 子どもの学校への忘れ物は少ないほうだ												
10 携帯・スマートフォン等の使用方法を決めて利用させている												
できた項目 合計												

(できた項目数)



第3章 子どもの発達段階に応じたかかわり

1 中1ギャップ問題とは



大阪市の小学校6年生時と中学校1年生時の不登校者数を比べると3倍以上になっています（くわしくは下のグラフのとおり）。

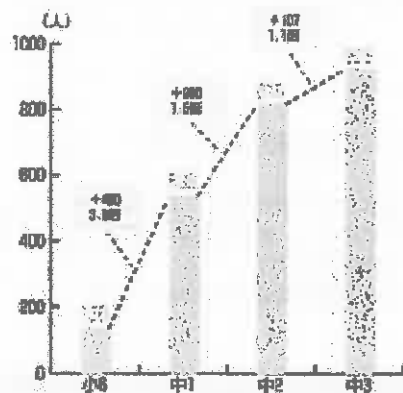
小学校と中学校では、さまざまな面で違いがあります。「中1ギャップ問題」とは、小学校から中学校への進学時に、新しい環境での学習や生活にうまく適応できず、学習面でのつまづきや不登校等が生じる問題です。

とくに学習面では、小学校から中学校への進学にあたって、授業の内容や進度について不安や負担を感じる子どもは急増します。

また、家庭での学習方法を小学校のうちから身につけておいたほうがよかったと子ども自身で感じています。中学生になると、予習・復習、テスト対策も含め、自主的な学習の進め方が必要となってくるからです。

しかし、これまでの生活を一変し、突然、生活環境を改善するというのは、大人でも大変なことです。家庭学習の習慣は、コツコツと身につけていくことがとても大切なのです。

平成21年度小学校6年生不登校者推移
(H24年度現在中学校3年生)



文部科学省「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」及び大阪府教育委員会調査結果より

小・中学校の主なギャップ例

学習面

小学校は学級担任制であるのに対し、中学校では教科担任制

授業時間（基本）は、小学校では45分、中学校では50分

各児童生徒の小学校時点における学習上の課題が、中学校と十分に共有されていない

中間・期末テスト等、定期テストに対する家庭での計画的な試験対策の必要性

学校生活面

各児童生徒の小学校時点における生徒指導上の課題が、中学校と十分に共有されていない

より濃い先輩・後輩という人間関係の出現（部活動の開始など）

中学校では小学校と比較して生徒に課せられる規則が多く、その規則に基づいたより厳しい生徒指導がなされる傾向にある

異なった小学校から来た生徒との人間関係の構築が必要

2 発達段階に応じたかかわりと学習方法

小学校
1・2年生



一緒に学習してやる気を起こさせる

ひとりで学習の内容や方法を決めることは、まだ無理なので一緒に考えてあげよう。

- 子どもの考えや色々な疑問に向き合い、わからないことは一緒に調べよう。
- 書いているのを見たり、読んでいるのを聞いてあげよう。子どもにとってはうれしいことだよ。
- まずは宿題を確認して、宿題からやりきろう。
- 学校からの連絡やお便りを一緒に確かめよう。

この頃の育ちの特徴

低学年の子どもは、「もっと知りたい」「もっとできるようになりたい」という好奇心でいっぱい。できないことをしかるより、「しようとする気持ち、できるようになったこと」を「自分でやろうとするのはすてきだよ」「ここまでよくできたね」と認めてほめることで、さらにがんばるようになります。

学校での主な学習内容

- ・ひらがな、カタカナの読み書き（1年）
- ・「て、に、を、は」を使い分けて文章を書く（1年）
- ・80字程度の漢字の読み書き（1年）
- ・160字程度の漢字の読み書き（2年）

国語

- ・100までの数を数えたり、表したりする（1年）
- ・1けたのたし算、ひき算（1年）
- ・簡単な2けたのたし算、ひき算（1年）
- ・2けたのたし算、ひき算の暗算や筆算（2年）
- ・かけ算（九九の暗記）（2年）

算数

- ・鉛筆を正しく持つ
- ・明日の学習を準備する
- ・整理整頓をする

生活科

家庭学習のヒント

【学習時間のめやす 10～30分】

- ・教科書の音読
- ・日記や作文（順番を考えて）
- ・ひらがな、カタカナ、漢字練習など

※音読は、声に出すことで文章の内容が理解できているかどうかをはかれるバロメーター。低学年は、意味のまともりに読んで読んでいるか、句読点（「、」や「。」）を意識しているか、大きな声で読んでいるか、棒読みになっていないかに注意しながら聞いてあげましょう。

- ・計算練習
- ・問題（たし算、ひき算のお話）づくり など

※お菓子を分けるなど、日常生活でも楽しく数量に触れる経験をさせてあげてください。

※九九の表を部屋やトイレの壁など、いつも目につく場所に貼りましょう。

- ・読書
- ・かんざつノート（花の咲く様子など）

※体の大きさに合った椅子を用意し、よい姿勢で座れるようにしてあげてください。20分間よい姿勢で座ることができかが1つのめやすです。

※学習前に身の周りの整理整頓をさせましょう。

学校では・・・

「話す、書き、計算」などの基礎的な学習がはじまります。多くは身の回りの生活と結びついて、具体的な物を使って覚えたり、繰り返し練習して、学習内容を自分のものにしていきます。

小学校
3・4年生



認めてほめて自信をつけさせる

自立心がめばえて自分でやろうとすることが多くなるけど、まだ手助けが必要だよ。

- まず学校からの宿題、そして好きなものを自主的に学習させる習慣をつけよう。
- 子どもがわからないところは、一緒に考えてあげよう。
- 辞書や地図、新聞などを身近に置いて自主学習に活用させよう。
- あたたかい助言やほめまじり、子どもたちのやる気を後押しするよ。
- やりとげたという喜びは、学習習慣を身につけることにつながっていくよ。

この頃の育ちの 特徴

中学年の子どもたちは、学校生活に慣れてくるとともに、自分でできることも多くなってきます。その一方、1・2年生で身につけた学習習慣がくずれがちになったり、勉強が急に難しくなったと苦手意識を持ったりする子どもも出てきます。

また、みんなと行動することを好むとともに、口ごたえや反抗が少しずつ見られるようになる時期です。

学校での主な学習内容

- ・200字程度の漢字の読み書き (3・4年)
- ・国語辞典を使う (3年)
- ・漢和辞典を使う (4年)
- ・簡単なことわざ (3年)
- ・ローマ字の読み書き (3年)

- ・3けた、4けたのたし算、ひき算 (3年)
- ・わり算 (3年)
- ・はかりを使って重さを読む (3年)
- ・少数のかけ算、わり算 (4年)
- ・分母が同じ分数のたし算、ひき算 (4年)
- ・わり算の筆算 (4年)

- ・乾電池や磁石、鏡を使った実験 (3年)
- ・地図帳や資料集を使って調べる (4年)
- ・金属や水の性質、電気のかき (4年)

- ・教科書の音読
- ・日記や作文 (中心をおさえて)
- ・漢字練習
- ・ローマ字の学習
- ・国語辞典を使っでの学習

国語

※中学年以降の音読で気をつける点は、読む「ねらい」をつけること！ 悲しい場面ではトーンを落として悲しそうに、楽しいシーンでは、うきうきはつらつと読むように促してみましょう。ただし、音読はあくまで楽しくやるのが大切。子どもが音読嫌いにならないよう注意しましょう。

算数

- ・計算練習
- ・問題 (式を立ててからの文章問題) づくり

※九九が暗唱できているか確認してあげましょう。答え合わせを一緒にし、間違った問題は必ずやり直すことが大切です。

理科

- ・読書
- ・かんさつ日記 (植物や昆虫など)

※地図を部屋の壁など、いつでも目につく場所に貼って、テレビ等で話題が出たらその都度場所を調べてみましょう。



学校では・・・

1年生から学習の時間、社会、理科の学習が始まり、学年ごとに大きく変わります。また、教科書や資料集などを使って調べ学習をする機会が多くなります。



小学校 5・6年生

見守ってはげまし、自主性を伸ばす

宿題と授業の復習を中心に、計画を立てて学習を進めていけるよう見守っていきましょう。

- 子どもの学習や将来の夢に関心を持って声をかけよう。
- ほかの子どもとの比較ではなく、昨日のわが子と比べ、ちょっとしたがんばりをほめていこう。

この頃の育ちの 特徴

高学年の子どもたちは、自立の心が大きく育ちます。自分を一人前と認めてくれているか、大切にしてくれているかなど、大人の評価がとても気になる時期。ときには反抗も見られます。また、中学生になると、自分で責任をもって決定することが必要となります。自分の意思をはっきりと持たせ、中学校で自主性を求められたときに「何をしたらいいのかわからない」状態にならないよう準備させましょう。

学校での主な学習内容

- ・185字程度の漢字の読み書き(5年)
- ・今まで習った漢字の熟語を書く(5年)
- ・パソコンでローマ字の入力(5年)
- ・181字程度の漢字の読み書き(5年)
- ・小学校で習った漢字の読み書き(6年)
- ・小学校で習った熟語を書く(6年)

国語

- ・教科書の音読
- ・日記や作文(自分の考えを明確にして)
- ・漢字練習
- ・国語辞典や漢字辞典を使っでの学習

※作文を上達させるには、普段の会話の際、単語だけで話してくる場合は「それはどういうこと?」「誰が?」「いつ?」など、筋道を立てて話すよう導いてあげましょう。不在時のメモのやりとりも訓練になります。

- ・異分母のたし算・ひき算(5年)
- ・割合・百分率を使った問題(5年)
- ・分数のたし・ひき・かけ・わり算(6年)

算数

- ・計算練習
- ・算数さがし(身の周りの比例、割合、立体)

※間違った問題は必ずやり直すことが重要です。わからないところがある場合は、次の日に学校で先生に教えてもらうようにさせてください。

- ・人の誕生や成長(5年)
- ・物の動きや規則性(5年)
- ・重要な年号の暗記(6年)
- ・社会や世界に目を向けた学習(6年)

社会

- ・新聞やインターネットを活用した学習
- ・自主学習(授業の予習・復習)
- ・ニュースについて話し合う

※「学習が終わったら、遊びに行ったりテレビゲーム等をしてよい」などのルールを決め、それを徹底させましょう。

学校では・・・

家庭科の授業が始まるほか、社会や世界に目を向けた学習など、学習内容が多くなります。また、課題を立てて考える課題の内容や、主体的な思考をとる学習が増えます。



中学校
1・2年生

しっかりはげまし、心のケアを十分にする

- 成績が思うように伸びない場合は、得意だったり好きな教科を集中的に伸ばしてみるのも、ひとつの選択だよ。
- 短い時間からでもいいので、学習時間が0（ゼロ）にならないよう、必ず家庭学習を行う習慣をつけていこう。

この頃の育ちの 特徴

中学校1・2年生の子どもたちは、周囲に依存したい気持ちと自立したい気持ちが入り交じり、不安や悩みを持って落ち込みやすい時期です。心と体の成長がアンバランスになりやすいので、しっかりはげましてあげることが大切です。中学校では教科ごとに先生がかわる、いわゆる教科担任制となり、部活動などもはじまります。子どもたちは小学校とのギャップを抱えながら、保護者の想像以上に頑張って日々を過ごしています。まずは、中学校の生活リズムに慣れさせることが重要です。

家庭学習のヒント

【学習時間のめやす 90～120分】



小学校で学習する内容に比べて、中学校では教科ごとに教える先生がかわり、より専門的な内容を学びます。また、定期的にテストが実施されるので、家庭での計画的な学習が求められます。最初は、まず教科ごとに出される宿題からはじめ、やがて勉強方法や内容を工夫して、自分自身で何をするかを考え、決められるようになることが大切です。

国語

・教科書の音読 ・漢字練習

※音読で意味のわからない語句や漢字が出てきたら、すぐに辞書で調べることを習慣づけましょう。漢字は、へんやつくり、字形を意識して書くことで頭に入りやすく、忘れにくくなります。

数学

・復習 ・いろいろな問題を解いてみる

※教科書の例題をもとに手順や仕組みを確かめて、間違いの原因をさがし改善する癖をつけることが大切。また、基本的な解きかたがわかっているのに、文章問題の形や表現方法が違うと解けないことがあります。問題集などを使って、いろいろな問題に慣れておく必要があります。

英語

・復習

※忘れてしまわないうちに、教科書を見て単語や英文をゆっくりと発音しながら正しく書き写しましょう。単語も文の中で他の語と組み合わせで覚えることで、その語の意味やイメージが定着しやすくなります。

社会

・復習 ・より深く調べて考える

※「教科書から重要語句や人物などをチェックしてノートに書く」→「資料・地図などで重要語句や人物を確かめてメモする」など、授業中に学習したことをわかりやすくまとめましょう。国や地域、歴史上の人物や出来事などを図書館の本やインターネットなどを活用してより詳しく調べてみるなど、授業で習ったことを社会の動きと関連させたり、生活の中で見つけたりすることも大切な学習です。

理科

・自由研究 ・復習

※教科書やノートを見て学習したことをまとめることで理解が進みます。図にしてみるのもよい方法でしょう。また、学習内容と日常生活や社会との関連を考えたり、学習内容をもとにした、ものづくり、観察や観測をすると、原理や法則の理解が深まります。



進路について家庭で話し合う時間をとる

- 将来を見据えた具体的な目標を持つことが、意欲の向上・学習への集中につながっていくよ。子どもと会話する時間を大切にしよう。
- 部活動の引退後は、授業終了後から夕食までの時間が長くなるよね。リズムがくずれてだらだらとした生活にならないよう、時間の使い方を工夫させよう。

この頃の育ちの特徴

中学校3年生は、進路を決める人生節目の大切な時期です。「やらなくては」と思っているのに、思うようにいかないとき、焦って自身にいら立って、ときには周囲への反抗がみられるかもしれません。進路に関する情報が不足していると一層不安な気持ちになるので、意識的に家庭でよく話し合える時間をつくっていくようにしましょう。

家庭学習のヒント 【学習時間のめやす120分以上】



中学校3年間のまとめの時期です。1・2年生の学習を含めて総復習をするための時間が必要となるので、そのことを頭に入れてスケジュールを組まなければいけません。年間のスケジュールを立てることで、どの時期に自分がなにをやればいいのかハッキリとします。

- ・くわしく知りたいことや、わからないことは、教科書や参考書で確かめましょう。
- ・国語の漢字や英語の単語や文型、数学の公式などは、繰り返し書いて覚えましょう。
- ・数学の計算や文章問題は、同じ問題や似た問題を問題集で解いてみましょう。
- ・社会や理科は、大切な語句や用語をわかりやすくまとめておきましょう。

夏休みの 活用方法

1・2年生までの総復習を集中して続ける絶好の機会です。問題集などのページ数と休みの残りの日数から、1日に学習する時間や量を決めて進めましょう。



進路希望 の時期

進路希望が明確になります。進路を見据えてラストスパートの時期。出題傾向を調べ、進路希望に合った問題集などに挑戦しましょう。



志水先生の／

なるほどコラム

（神戸大学経済学部 志水先生）

子どもとどうかかわるか「期待すること」の大切さ

子どもの将来のことを考えると不安になる保護者の方は少なくないでしょう。どの高校に進学したらよいか、どんな職業なら幸せになってくれるか、考えだすときりがありません。子どもには、本人が納得した上で、学校や職業選びをしてほしいものですが、保護者としてはどのようにかかわるのがよいのでしょうか。

教育の分野では、「ピグマリオン効果」と呼ばれるものがあります。もともと心理学の実験から生まれた言葉です。アメリカの学校で、あるクラスの子どもたちの何人かが「知的に優れている」、別の何人かが「優れていない」と診断されたという結果が、学級担任に伝えられました。学級での指導の参考にするためです。それから1年経ったのち、子どもたちがテストを受けると、「優れている」とされたすべての子どもの学力が向上しており、逆に「優れていない」とされた全員の学力が低下していたそうです。

実は、その診断の結果は全くのデタラメで、何の根拠もないものでした。にもかかわらず、教師が子どもたちに向けた「期待」の大きさ、あるいは小ささが、学力の変化に如実につながったのです。この結果から、「教育者がもつ大きな期待によって、学習者の学力は大幅に向上する」（もちろん、その逆もありえます）という現象が、「ピグマリオン効果」という言葉で呼ばれるようになりました（「ピグマリオン」とは、ギリシャ神話に由来する言葉）。

この話は、家庭での子育てにもかなりの程度で当てはまります。学年が進むにつれて、子どもたちは将来に対する夢や希望を持つようになるでしょう。もちろん壁にぶつかることもあります。勉強にしても運動にしても、「できないこと」が増えていくと、自分の夢をあきらめたい気持ちにもなるかもしれません。そこで、子どもへの「期待」を保護者が保ち続けることが大切になってきます。

「あきらめなければ、きっと夢は成就する」というメッセージを与え続けるべきです。もちろん、子どもに対して過度に期待しすぎることは、かえってプレッシャーになることもあります。勉強が苦手な子や、学校に行くことがおっくうな子に、「やればできる!」と強要することは、かえって追いつめてしまうことにもつながります。しかし、子どもの側からすると、親から「どうせできない」と切り捨てられることは、それと同じくらい、いやそれ以上に学ぶ意欲をくじくものとなります。ふだんの勉強や家庭生活、そして将来の夢や希望にかんして、優しい「まなざし」で期待してあげることが、子どもたちの「やる気」を力強くあと押ししてくれるはずです。

家庭学習チェックシート

ステップ3 「子どもの発達段階に応じたかかわり」

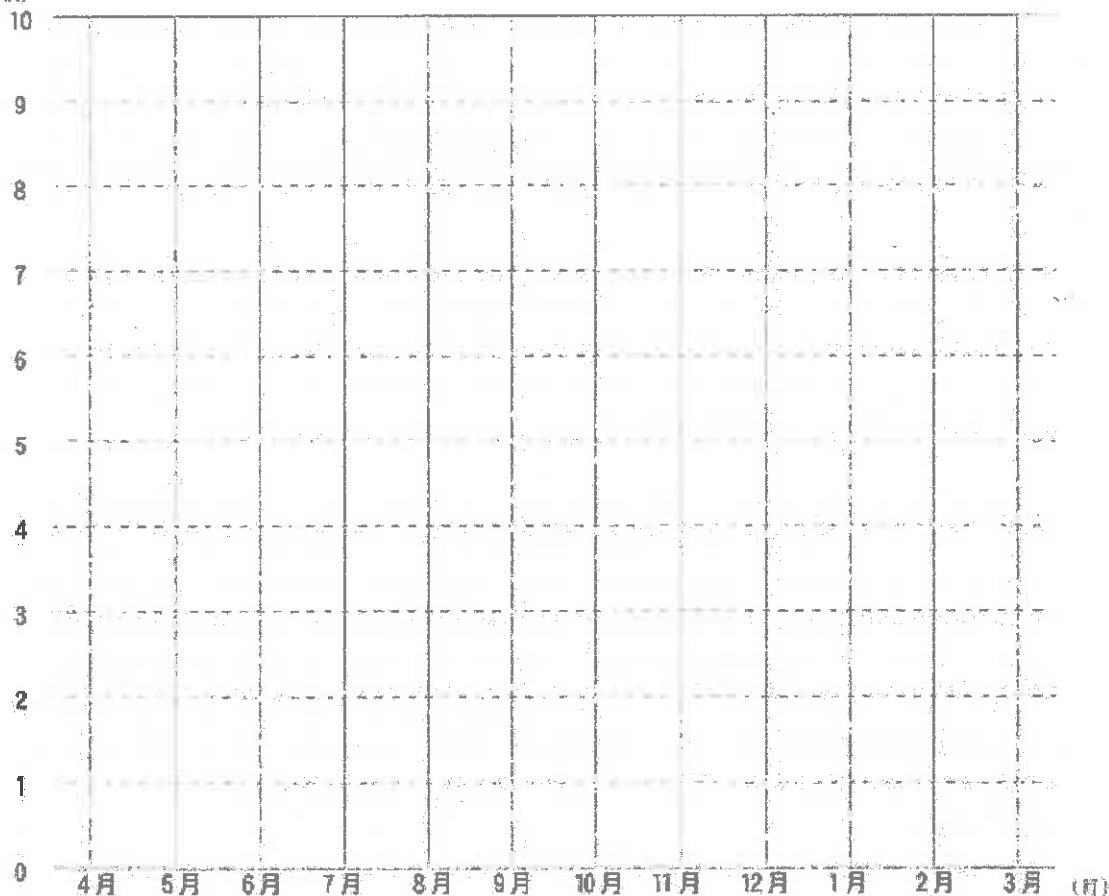


<チェックシートの使い方>

毎月できた項目にチェックを入れ、
合計を折れ線グラフにしてみましょう。

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1 本や新聞を読むようにすすめている												
2 自らも本を読み、子どもと感想をいいあっている												
3 子どもがいま学んでいる勉強を把握している												
4 計画的に勉強するよう促している												
5 英語や外国の文化に触れるよう意識している												
6 できるだけ博物館や科学館、図書館、美術館や劇場などに足を運んでいる												
7 子どもと「勉強や成績」「将来や進路」「友達のこと」について話をする												
8 子どもと「社会の出来事や話題のニュース」について話あっている												
9 学校の教育目標や、その達成に向けた方策を知っている												
10 学校やクラスの教育活動にかんする情報提供を役立てている												
できた項目 合計												

(できた項目数)



第4章 家庭学習のお役立ち情報

1. 家庭学習に役立つ教材あれこれ

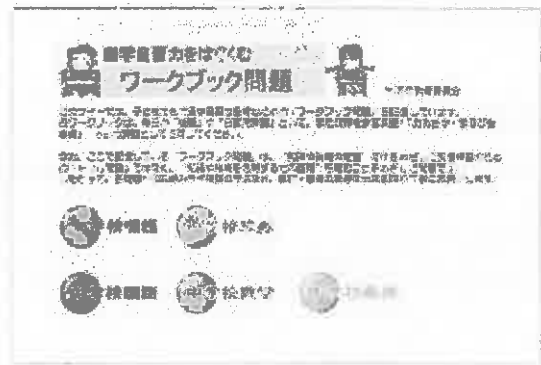
大阪府教育委員会、大阪市教育センターでは、各種無料教材を一般の方でもダウンロードできるようになっているので、ぜひお子さまの家庭学習にご活用ください。

小学校1年生～中学校3年生用まで、各学年ごとにワーク・ブック（家庭学習用プリント）を開発し、WEB上にて配信しています。

対象科目

小学 → 国語・算数

中学 → 国語・数学・英語



☆ダウンロードは、大阪府教育委員会のHPからお入りください。もしくは、「大阪府教育委員会 ワークブック問題」等で検索してください。

サイトアドレス

<http://www.osaka-c.ed.jp/kate/karicen-folter/workbook-for-pref/workbook-index.htm>

小・中学校の各種学習教材を提供しています。

小学校【学びのたしかめ】

「国語ステップアップシート」

- ・低学年（1～3年生用）
- ・高学年（4～5年生用）

「算数わくわくチャレンジプリント」

- ・（6年生用）

中学校【学びのステップアップ】

「数学」

- ・中学校1～3年生用
（各学年の単元ごとに問題を精選して
まとめてあります。）

※国語・英語についても現在準備中。



☆ダウンロードは、大阪市教育センターHP 教材・資料の「小学校教材」「中学校教材」メニューからお入りください。

サイトアドレス

<http://www.ocac.jp/center/index.cfm/29.html>

大阪市立自然史博物館

学習用シートや、教科から見た展示の詳細等、家庭学習にも役立つ情報が満載です。

サイトアドレス

<http://www.mus-nh.city.osaka.jp/>

独立行政法人科学技術振興機構「理科ネットワーク」

理科教育用のデジタル教材を集めた Web サイトです。

サイトアドレス

<http://www.rikanet.jst.go.jp/>

NHK for School

番組やクリップなどの動画のほか、子ども向けの学習ゲームなど学べる素材が豊富です。

サイトアドレス

<http://www.nhk.or.jp/school/>



ニコラム

最近注目を集める“教育のオープン化”“反転学習”とは？

インターネット上で、どこでも誰でも無料で受けることができる大規模な公開オンライン講座（MOOCs）が広まっています。代表的なものは、欧米発の Coursera、edX、Udacity、Future Learn、Open2Study、OpenEd といったものですが、そこには国を問わず各種教育機関が参画し、全世界向けにオンライン講座が提供されています。その日本版の JMOOC も始まっています。

また、日本の現役大学生が教える大学受験用の無料授業動画「マナビー（manabee）」も話題となっていたり、現在、塾が Youtube 等に授業を公開するなど、小・中学生用の無料動画も増えてきました。子どもたちの反応を見ながら、家庭学習にインターネットを有効に利用してみるのもひとつの方法です。

従来、「授業」といえば、先生が教壇に立って講義を行うもので、そこで得た学びを家庭で復習して知識を定着させたり、発展させたりするのが「宿題」でした。反転授業とは、このあり方が文字通り「反転」する教育方法で、これまで教室で行われていた「知識伝達」の内容をビデオやオンライン化し、講義を自宅で受け、学校では双方向の授業を展開したり、生徒の習熟度に応じて指導したり、応用を行うというものです。近年、アメリカの小中学校で広まりを見せ始め、日本でもその有用性が大いに注目され、試験的に導入している学校もあります。

2 おすすめホームページ

●大阪市の保護者むけのリーフレット「いっしょにのぼそう！子どもの学力」

小学校版：<http://www.city.osaka.lg.jp/kyoiku/cmsfiles/contents/0000286/286125/leaflet%28p%29.pdf>

中学校版：<http://www.city.osaka.lg.jp/kyoiku/cmsfiles/contents/0000286/286125/leaflet%28j%29.pdf>

●大阪府「保護者・地域とともにはぐくむ大阪の子どもたちの学力（リーフレット）」

<http://www.pref.osaka.lg.jp/shochugakko/rifurettuto/>

●大阪市「子育て家庭を応援する『親力アップサイト』」

<http://www.city.osaka.lg.jp/kyoiku/page/0000121316.html>

●大阪府「家庭教育支援」

<http://www.pref.osaka.lg.jp/chikikyoiku/kateikyoiukusien/>

●文部科学省「家庭教育手帳」

http://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/katei/main8_a1.htm

●文部科学省「子どもたちの未来をはぐくむ家庭教育」

<http://katei.mext.go.jp/index.html>

●文部科学省「家庭で・地域で・学校でみんなで早寝早起き朝ごはんー子どもの生活リズム向上ハンドブッケー」

http://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/katei/08060902.htm

●農林水産省「めざましごはん」

<http://www.maff.go.jp/j/seisan/kakou/mezamasai.html>

●「早寝早起き朝ごはん」全国協議会

<http://www.hayanehayaoki.jp/>

●平成 26 年度大阪市「全国学力・学習状況調査」の結果について

<http://www.city.osaka.lg.jp/kyoiku/page/0000286125.html>

●文部科学省「全国学力・学習状況調査」

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/

3 地域の教育資源

港図書館

〒552-0007

大阪市港区弁天2-1-5 3階

06-6576-2346

06-6571-7915

サイトアドレス

<http://www.umi.city.osaka.lg.jp/>

※詳細情報はホームページ等でご確認ください。



相談窓口情報

大阪市こども相談センター

教育相談

06-4301-3100

(平日午前9時～午後5時30分)

大阪府警察本部 少年課グリーンライン

子どもの悩みや非行などの相談

06-6772-7867

(平日午前9時～午後5時45分)

すこやか教育相談

06-6607-7362

(平日午前9時30分～午後5時30分)

0570-078310

(時間外および土日祝日、24時間対応)



「港区版 家庭学習の手引き」監修
志水 宏吉 (しみず こうきち) プロフィール

1959年兵庫県生まれ。
東京大学大学院教育学研究科博士課程修了(教育学博士)。
東京大学教育学部助教授を経て、大阪大学大学院人間科学研究科教授。専攻は、学校臨床学、教育社会学。
主な著書に『公立学校の底力』(ちくま新書)、
『学力を育てる』(岩波新書)等。

受託事業者 / 株式会社ルート

Memo

制作
大阪市 総務局

発行
2015年3月